

国 語

科 目 名	単 位 数	学 年	学 科
国語表現	4単位	3年	普通科

教 科 書	国語表現 改訂版 (大修館書店)	副 教 材	常用漢字ダブルクリア (尚文出版)
-------	------------------	-------	-------------------

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	・言葉と出会う ・伝える、伝え合う	・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けしている。 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・「話すこと聞くこと」について、目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・「書くこと」について、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。
2 学期	・小論文・レポート入門 ・自己PRと面接		
3 学期	・メディアを駆使する ・会話・議論・発表		
1 実社会に必要な言葉の知識や技能を身に付けるために、たくさんの種類の本を読もう。 2 文章の内容を的確に捉え、それに関する自分の考えを深めよう。 3 自分の意見を他者に理解してもらえよう、表現の仕方を学ぼう。			

番号	評価の観点	評価規準
①	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。
②	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各領域について、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
定 期 考 査	1 学期中間・期末 2 学期中間・期末 学年末 (計5回)	
評 価 方 法	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能 (定期考査、ファイル) ②思考・判断・表現 (定期考査、レポート、課題、意見発表) ③主体的に学習に取り組む態度 (授業内での発言、レポートや意見発表の自己評価・相互評価)	